

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | |
| | 返 赤 |
| 配架番号 | 3 A |
| | 14 |
| | 32-12 |

This document is the same
with Document No. 311

九九式八種高射砲取扱指導ニ關スル説明書
(照準具關係ヲ除ク)

昭和十九年八月
第一陸軍技術研究所

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | |
| 配架番号 | 32-12 |

めくれず

（一）
火銃

（二）
火銃

第一章
開味

第二章
開味

目次

第一章 兵器取扱指導ニ關スル主旨及一般的注意事項

第二章 火砲各部取扱（使用）ノ上ノ注意事項並ニ取扱不良ニ基ク
故障事例

第三章 分解結合要領

第一節 通 則

第二節 砲 身

第三節 閉 鎖 機

第四節 自動閉鎖機

第五節 駐 退 機

第六節 復 坐 機

第七節 持架制衝桿

第八節 提爪及齒圍紋

第四章 點檢調整要領

第五章 砲床ニ就テ

第六章 射撃上ノ注意

第七章 主ナル制式改正一覽表

第八章 主要諸元

附圖目次

附圖第一 全體圖（後面ヨリ見タル圖）

二 砲身搖架

三 砲尾右側面

四 砲尾左側面

五 閉鎖機分解圖

六 同

七 自動開放装置

八 駐退機

九 復坐機

十 砲架

十一 高低、方向照準機

十二 方向迅速旋回装置

十三 ベルトン砲床

九九式八糧高射砲取扱指導ニ關スル説明書(照準具關係ヲ除ク)

第一章 兵器取扱指導ニ關スル主旨及一般的注意事項

第一 現下兵器ノ整備補給ハ生産力、資材關係及輸送力等ヨリ量的ニ相當ノ量ヲ受ケアルノミナラズ金質ノ低下検査條件ノ緩和、特別採用ノ増加等ハ質的ニ兵器素質ノ低下ヲ來タシツ、アリ

一 廢兵器ノ損傷ヲ來サバ適時所望ノ兵器部品ノ補給ヲ受クルガ如キハ得テ望ムベカラズ否部隊ノ現有兵器部品ヲ以テ終始戦力ヲ維持増進セザルベカラザル情勢ニアリト言フモ過言ニアラズ

此ニ於テ部隊ニ於ケル兵器取扱ノ適否ハ直チニ戦力ニ影響スル所極メテ大ニシテ兵器ニ對スル關心ノ向上今日ヨリ切實ナルハナシ、今般兵器進修教育班ヲ派遣セラレタル趣旨誠ニ茲ニ存ス、諸官ハ宜ク現下ノ兵器情勢ヲ認識シソノ責務ノ重大ナルコトヲ自覺シ兵器取扱ノ適正ヲ期シ苟モ兵器ノ取扱不良ニ起因シ戦力ヲ低下スルガ如キコトナキヲ要ス、以下一般的事項ニツキ注意スベキ事項ヲ述ベント

ス

一 構造機能ニ精通スルコト

兵器ノ取扱ヲ適正ニシソノ威力ヲ發揮スル基礎ナルヲ以テ常ニ研鑽ニ努メ兵器ノ構造、機能ニ精通セザルベカラズ。然ルトキハ又隨機應變ノ處置ヲ誤ルコトナカルベシ

ニ 砲身ノ愛護ニ就テ

砲身ハ火炮ノ生命ナリ特ニ之カ愛護法ニツキ注意ヲ喚起スル所ナリ

三 點檢調整ヲ行フコト

兵器ハ常ニ反力ヲ發揮スルタメ最良ナル状態ニ保持セザルベカラズ之レ絶ヘズ點檢調整ヲ行ハザルベカラザル所以ナリ

四 保存法ヲ實行スルコト

保存ノ適正ヲ期シ以テ常ニ兵器ノ状態ヲ最良タラシメザルベカラズ

五 訓練ト兵器整備トヲ併行シテ行フコト

訓練ノ状態ニ應ジ之レニ伴ヒ適正ナル整備ヲ行フコト

六 早期修理ノ勵行

努メテ部除ニテ處理シ得ベキ程度ノ早期ニ修理スルコト極メテ必要ナリ

七 検査眼ノ養成向上

點檢調整早期修理ノ勵行等一々検査眼ノ良否ニヨリ適正ヲ期シベシ

八 取扱ヲ土地ノ状態及氣象ニ適應セシムルコト

第二章 火炮各部ノ取扱 (使用)上ノ注意
事項並取扱不良ニ基ク故障事例

第二 砲 身

一 砲身ハ火炮ノ生命ナリ其ノ取扱ハ特ニ注意シテ打痕、反起、腐蝕、磨滅等ヲ生ズベカラズ

二 砲口手入ノタメニハ偏磨防止ノタメ砲口保護器ヲ製作使用スル

可トス

3. 射撃後ハ速ニ砲腔薬室ノ手入ヲ充分ニナシ錆蝕、腐蝕ノ防止ヲナスコト

4. 搖架前端ノ砲身接觸部ニハ充分ベトロラタム等ヲ塗布シテ雨水ノ浸入ヲ防止スルコト

組立後何等處置セズ其ノ儘トシタルタメ雨水浸入シ搖架及砲身間ニ錆付ヲ生ジタル事例アリ

5. 砲身ハ左右各一組ノ復坐機ばね力ニヨリ其ノ位置ヲ保持シアリ然ルニ一組ノミ作用セシメテ射角ヲ掛ケタルタメ急激ニ砲身後退シ

駐退機内部々品ニ反起ヲ生セシメタル事例アリ
又非常ニ危険ヲ伴フ場合アルニ付注意スルコト

第三 閉鎖機、自動閉鎖機

1. 必要以上ニ閉鎖機ノ開閉及擊鐵ノ「カラ射チ」ヲセザルコト

2. 閉鎖機ノ燒付(主トシテ鎖栓外面ト砲尾内面ノ接觸部トス)防止

ニ關ジテハ特ニ細心ノ注意ヲナシ燒付癖ヲ生ゼズ又燒付擴大セザル如ク早期修理及油類ノ塗布量、塗布時期ニ就キ注意スルコト
大切ナル戰闘ノ際ニ、三回ノ射撃ノタメ燒付ヲ生シ時期ヲ失シタル例多シ

3. 開閉槓軸ヲ脱シ(即チ閉鎖機ト自動開閉機トヲ分離ス)タル場合把手ハばね力ニヨリ外方ニ開クタメ其ノ先端ハ砲尾左側ノ溝ノ内ニ裝入スル故開閉槓桿ト把手ヲ共ニ握ラザレバ旋回セザル機構ヲ有スルニモ拘ラズ其ノ作用ヲ知ラズ且機能不良ノ儘ニナシアル状態ナリ

閉鎖機分解ノ際ノ危害豫防止點檢調整スル必要アリ

4. 閉鎖機ヲ開キ最大射角ニナシタルトキ何處ニ接觸スルヤ又其ノ儘ニテ方向旋回可能ナリヤ點檢スルコト

第四 駐退機、復坐機

1. 駐退機、復坐機ハ射撃シタル場合其ノ有難味ヲ感ズルモノニシテ

平時ノ訓練ノ際ハ何等關心ヲ有セザルモノ多シ構造機能ニ精通セザルタメ臨機應變ノ處置ヲ誤ルモノ多シ駐退機、復坐機ハ人間ニ例ヲ取レバ心臟又ハ腹ニ相當スルモノニシテ特ニ大切ナリ

第五 搖架、砲架

1. 後坐測尺ハ動搖セザル如ク裝著シ又後坐測尺ノ目盛ト遊標ノ矢標ハ一致サスコト
2. 遊標ノばね弱ク射撃ノ際過大ノ後坐長ヲ示スコトアルニ付注意スルコト
3. 砲架擧爪ノ存在及作用ヲ知らズ間隙大ナルモノヲ射撃シタルタメ砲架ノ仰起ヲ一層大ニセントセシ例アリ
4. 方向制限指示器ノ作用ヲ知らズ方向旋回ノ終期ニ於テ急激ニ方向旋回ヲナシ内部ノ方向ニ回旋回制限裝置ヲ破損セシ例アリ

5. 方向制限指示器ヲ他物ニ突キ當テ變形セシモノ多シ
6. 本砲ハ高低、方向照準機ノ機構複雑ニシテ方向機構内ニ高低機構裝入シアリ高低、方向照準機ヲ同時ニ使用スル場合屢々燒付ヲ生ズル事アリ、各部ノ燒付、反起、打痕等ヲ除去シ且充分塗油シ圓滑ニ運動スル如クスルコト
7. 砲床ノ水準規正ヲ定期的ニ實施スルコト
8. 本砲ニハ方向二回旋回制限裝置アリ主要ノ某方向ニ全火砲ヲ指向シ左右各一回宛旋回スル如ク砲架ヲ砲床ニ組立ルコト

第三章 分解結合要領

第一節 通 則

第六 分解及結合ハヨク構造機能ヲ研究シタル後本要領ニヨリ實施スルコト機能良好ナルモノハ特ニ必要アル場合ニ限り之ヲ行フモノニシテ濫リニ行フモノニアラズ、左ノ部具ハ造兵廠ノ外分解セザルヲ立前トス

照 準 具

第七 左ノ各部ハ修理、交換、機能、調整等特ニ必要ヲ認メタル場合ニ限り分解スルモノトス

1. 砲身ト砲尾
2. 駐 退 機
3. 復 坐 機
4. 架身ト架匡
5. 高低方向照準機（方向迅速旋回装置共）
6. 砲架ト落架

第八 結合ハ特ニ示スモノノ外ハ概ネ分解ト反對ノ順序方法デアアル

第九 分解結合上一般ニ注意スベキ事項左ノ通り

1. 構造機能ヲ充分ニ研究シタル後本要領ニヨリ徐々ニ行ヒ決シテ無理ヲセザルコト
2. 本砲ノねじハ全部右ねじナルニ付分解スル時ハ時計ノ針ノ動クノ

ト反對ニ廻スコト（但シ自動開閉機閉鎖は乙（小）及復坐ねじ一ケノミ左巻トス）

3. 分解結合困難ナトキハ強ヒテ之ヲ行ハズ直ニ關係者ニ連絡スルコト
4. 分解シタ時錆及反起ガアツタリ面ガ丸ク取ツテナカツタリ塗料ガ餘分ニ塗ツテアツタリ其他不具合ノ個所ガアリタル時ハ修正ノ上組立ルコト

5. 本要領ノ分解順序ハ砲身ヨリ順次ニ正式通り分解スル如ク記入シテアルモ必要ノ場合ハ構造機能ヲヨリ研究シテ間違ヒサヘナケレバ其ノ一部分ノミ實施スルモ差支ヘナイ（即チ應用動作ニテ實施シテ差支ヘナイ）

6. 結合スル場合ハ一部分毎ニ其ノ機能ヲ點檢シ次ニ又結合シ機能ヲ點檢スルコト、然ラザレバ全部結合シタル後機能點檢シタルトキ不具合ノ個所ガアツテモ分ラナイシ又非常ニ無試ヲ生ズル事ガ多

7. 結合ノ際ハ其ノ場所及機能ニ應シテ適宜ノ油類ヲ充分ニ塗り圓滑ニ動ク如クスルコト

第二節 砲身

第十 砲身ヲ搖架体ヨリ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1. 砲身ヲ水平ニナス
2. 高低轉把ヲ索等ヲ以テ砲架ノ一部ニ括リ回轉セザル如クス
3. 活塞桿ナツト大ヲ脱シテ駐退機ト砲尾トノ連結ヲ解ク
4. 伸縮桿駐栓ヲ脱シテ復坐機ト砲尾トノ連結ヲ解ク
5. 後坐尺ヲ搖架体ヨリ脱ス
6. 自動閉閉機ト閉鎖機ヲ結合シテア開閉槓桿軸ヲ脱シ次ニ外筒軸ヲ脱ス即チ自動閉閉機ヲ取除ク
7. 砲身ヲ吊ル起重機等ヲ準備シタル後砲身ヲ後方ニ押シ出シ搖架ヨリ脱ス

第十一 砲身体ト砲尾トヲ分解スルニハ砲身ヲ搖架ヨリ脱シ次ニ閉鎖機ノ各部品ヲ全部砲尾ヨリ脱シタル後左ノ順序方法ニヨル

1. 砲尾前面下方ニ裝著セル回轉止板ヲ脱ス
2. 緊定環ヲ回シねじ部ガ全ク砲尾ヨリ脱シタル後若干前方ニ移動ス
3. 起重機等ヲ以テ砲尾ヲ水平ニ後方ニ脱ス
4. 身管交換ノ砲身ナラバ身管ト被筒ノ廻止用ノ「キー」ガアルノミニテ止メハ無キタメ砲口ヨリ錘打セバ身管ハ後方ニ脱ス

第三節 閉鎖機

第十二 閉鎖機ヲ砲身ヨリ脱スルニハ左ノ順序方法ニヨル（射角ハ適宜ノ角度トス）

1. 自動閉閉機ト開閉槓桿トノ結合ヲ解ク即チ槓桿軸ヲ脱ス
2. 擊室塞底ヲ前方ニ壓シ九〇度旋回シタル後擊室塞底擊室ばね總室ヲ後方ニ脱ス
3. 壓桿室ノ把子ヲ壓シ次ニ壓桿室ヲ下方ニ旋回シ壓桿室ト引鐵トノ

結合ヲ解ク

4. 引鐵ヲ後方ニ引キ安全栓ヲ發火位置ヨリ約二〇度上方ニ回シテ安全栓ヲ右方ニ引キ抜ク
5. 槓桿能栓ヲ抜ク
6. 能栓ヲ下方ニテ支ヘ開閉槓桿ノ把子ヲ握リ開閉槓桿ヲ後方ニ旋回シ開閉臂板ト鎖栓トノ接觸ヲ解キ鎖栓ヲ下方ニ降ス
7. 引鐵ヲ後方ニ引キ次ニ右側方ニ引キ抜ク
8. 抽筒子ヲ分解スルニハ抽筒子支栓受ノ小ねじヲ脱シ次ニ抽筒子支栓受ヲ脱ス次テ抽筒子ヲ下方ヨリ支ヘタル後抽筒子把子ヲ握リ抽筒子支栓及抽筒子支栓ばねヲ右方ニ引キ抜ク
9. 開閉槓桿ヲ砲尾体ヨリ分解スルニハ能栓ヲ抜キ開閉槓桿ヲ左方ニ脱ス次ニ開閉臂板ヲ鎖栓室内ニ於テ右方ニ脱ス次ニ開閉槓桿ノ軸ヲ脱シ把手、駐桿、ばねヲ分解ス
10. 鎖栓ニ附着セル部品ヲ分解スルニハ鎖栓ヲ逆ニ立テタル後次ノ如ク實施ス

ク實施ス

イ. 鉤脱子軸ヲ僅カニ左旋回シテ一方ヨリ輕打シ側方ニ抽出シテ鉤脱子及鉤桿ヲ脱ス

ロ. 左手ニテ鉤桿ヲ握リ右手ニテ鉤脱子ヲ持チ左旋回シ鉤脱子ヲ右方ニ脱ス

ハ. 左手ニテ逆鉤軸止ヲ上方ニ若干上げ右手ニテ逆鉤軸ヲ繼ネ垂直ニナル如ク左旋回シタル後逆鉤軸ヲ引キ抜ク

ニ. 逆鉤ヲ脱ス

ホ. 逆鉤軸止ノ凸筒ト鎖栓ノ凹部ト一致セシメタル後逆鉤軸止ヲ引キ抜ク

第四節 自動開閉機

第十三 自動開閉機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1. 自動開閉機ヲ閉鎖機及搖架ヨリ脱ス
2. 駐桿軸ヲ脱シ次ニ駐桿及駐板ばねヲ外筒ヨリ脱ス

3. 壓筒ヲ回轉シテ閉鎖ばね甲ヲ順次ニ伸バシテ壓筒トばね室トノ連結ヲ解キ壓筒及閉鎖ばね甲ヲ前方ニ脱ス
4. 閉鎖ばね軸ト横桿トノ回轉止用ピンヲ抜キ次ニ横桿ヲ回轉シテ閉鎖ばね乙ヲ順次ニ伸バシテ連結ヲ解キ閉鎖ばね軸ハ前方ニ他ノ部品ハ後方ニ脱ス

第五節 駐退機

第十四 駐退機ヲ搖架ヨリ脱スルニハ活塞桿ナツト甲ヲ脱シ次ニ蓋板止メノ小ねじ六個ヲ次テ蓋板ヲ脱ス

- 第十五 駐退機内部ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨリ
1. 前方緊塞体裝着ノ駐子（小ねじ共）及廻止（小ねじ共）ヲ脱ス
2. 節制桿ヲ旋回シテ脱シ次ニ駐退液ヲ排出ス
3. 前方緊塞体ヲ旋回シテ駐退管トノ結合ヲ解キ前方緊塞体ヲ脱ス
4. 口元緊塞体ヲ駐子（小ねじ共）ヲ脱シ壓螺ヲ緩メ次ニ口元緊塞体ヲ旋回シテ駐退管トノ結合ヲ解キ口元緊塞体ト共ニ活塞桿ヲ後方ニ引キ抜ク

ニ引キ抜ク

5. 復坐節制桿ヲ分解スルニハ復坐節制桿ト外筒トノ小ねじヲ脱シ外筒ヲ旋回シテ復坐節制桿ト外筒トノ結合ヲ解キ副筒（二ツ割）及ばねヲ脱ス
6. 活塞桿ヲ分解スルニハ活塞桿外筒用小ねじヲ脱シ其接續環ニ對シ活塞桿外筒ヲ旋回シテ結合ヲ解キ其接續環、活塞、活塞桿外筒、活塞桿ニ分解ス

第十六 駐退機分解結合上ノ注意左ノ通り

1. 前方緊塞体及口元緊塞体ノ分解ハ相當固ク困難ナルヲ以テ搖架上ニ裝着シアル間ニ駐退液ノ漏レザル程度ニ各部分共旋回シ置ク可トス
2. 本砲ノ緊塞環ハ「銅」ヲ使用シアルニ付分解結合ノ際ハ「キズ」「マクレ」「變形」等ヲセザル様注意スルヲ要ス
3. 後復坐ノ際ノ運動部ニハ「キズ」「マクレ」「變形」等ヲ生セザ

ルハ勿論ナルモ活塞内徑、節制桿ノ外徑、復坐節制桿ノ内徑及擡部ハ特ニ注意シテ取扱フコト

4. 液量五立九トアルハ標準ヲ示スモノニシテ各砲ニ於テ若干ノ差異アルヲ常トス結局満量ニナスコト

節制桿ト空氣抜孔塞螺ノミヲ殘シ他ヲ全部結合シ駐退管ヲ立テ駐退液ヲ稍々多量ニ注入シ節制桿ヲ徐々ニ裝入組立ル然ラバ餘分ノ液ハ空氣抜孔ヨリ流れ出ル

5. 組立ノ際活塞桿ノ位置ニヨリ液量ハ若干ノ差異アルヲ以テ搖架体ニ結合後射角ヲ附與シ上方ノ空氣抜孔塞螺ヨリ液量ヲ點檢スルコト

第六節 復坐機

第十七 砲身ノ後退ハ復坐機ノばね力ニヨリ支ヘラレテキルモノニ付復坐機ヲ分解スル場合ハ砲身ヲ水平ニナシ高低轉把ヲ索等ヲ以テ砲架ノ一部ニ括リ回轉セザル如クナス

第十八 復坐機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1. 屬品中ノ橫桿ヲ使用シテ伸縮桿駐栓ヲ脱ス
2. 復坐機全体ヲ搖架体ノ室ヨリ前方ニ引キ抜ク
3. 前方ノ塞帽ヲ脱ス
4. 蓋板（小ねじ二共）ヲ脱シ内部ノ「ナット」止用ピンヲ抜ク
5. 伸縮桿ナットヲ脱ス
6. ばね伸縮筒ヲ回轉シテ順次ばねヲ伸バシツツ伸縮桿トばね伸縮筒トノ結合ヲ解キばね及ばね坐板ト共ニばね伸縮筒ヲ前方ニ伸縮桿ヲ後方ニ引キ抜ク

第十九 復坐機分解結合上ノ注意

1. 本砲ノ復坐ばねハ設計上豫壓以上ニ伸縮桿ヲ長クシテアルタメ分解結合ノ際震動ハナキ如クシテアルモ復坐管ノ延長上ニアリテ操作スルコトハ嚴禁ス
2. ばね坐及ばね坐板ノ位置ヲ誤ラザルコト

3. 結合ノ際復坐ばねニハ充分ニ「ベトロラタム」ヲ塗ルコト
4. 結合ノ際若干餘分ニばね伸縮筒ヲ装入シ置キナツト及ビピンヲ確
實ニ入レタル後ばね伸縮筒ヲ戻シテナツトノ前面トばね伸縮筒後
面ト接觸スル如クスルコト

第七節 搖架制衝桿

第二十 搖架制衝桿

搖架制衝桿ヲ分解スルニハ作業容易ナル射角ニナシタル後四本ノボ
ルトヲ脱シばね室ト共ニ制衝桿、ばね、ばね坐ヲ搖架体ヨリ脱ス、
此ノ場合各部品ヲ落下セザル如ク注意ヲ要ス結合ノ場合ハ各部品ニ
「ベトロラタム」ヲ適當ニ塗布スルコト

第八節 握爪及齒圈板

第二十一 齒圈被取付ノ小ねじヲ脱シ次ニ齒圈被ヲ架身ヨリ脱ス、握
爪取付用ボルトヲ脱シタル後握爪ヲ架身ヨリ脱ス

第四章 點檢調整要領

第二十二 支給セラレタル火炮ニ對シ絶對信用スルハ可ナルモ他方之
ガ各部ノ構造機能ヲ熟知シ取扱法ニ精通シ點檢調整ヲ完全ニシアル
コトハ絶對ニ必要ナリ、火炮受領セバ新品ナリト雖モ左記ノ通り點
檢調整ヲナスヲ要ス

第二十三 駐退機分解點檢

目的

液量ハ充分ナリヤ、液中ニ不純物ナキヤ、結合ノ誤リナキヤ、
反起、錆付ナキヤ、塗油充分ナリヤ等ヲ檢ス
右ノ通り分解點檢ヲナサバ其ノ後ハ一年一回ノ駐退液ノ入替ヲナ
ス（全部分解スルコトナク俯角ニナシ節制桿ヲ引キ抜キ排液ス）
六ヶ月ニ一回活塞桿ノ緊塞具接觸部ヲ引キ抜キ手入ヲナス

第二十四 復原機分解點檢

目的

塗油充分ナリヤ、ばね喪損シアラザルヤ、塵埃其ノ他ノ不純物混

入シアラザルヤ、
第二十五 自動開閉機分解點檢

目 的

塗油充分ナリヤ、結合ノ誤リナキヤ、焼付ナキヤ、内厚薄キタメ
變形シアラザルヤ、

第二十六 砲身ヲ後退セシメ砲身ト搖架トノ機能點檢

塗油充分ナリヤ、射付ナキヤ、打痕、反起等ナキヤ等ヲ檢ス

第二十七 機械力ニヨリ砲身ヲ後復坐セシメ機能點檢

各部ノ綜合機能點檢ナルモ自動開放機能ヲ特ニ注意シテ實施スルヲ
要ス

此ノ場合機械力ノ關係ニテ片方ノ復坐機ノミ作用セシムルモ差支ヘ
ナシ

第二十八 閉鎖機ノ抽筒機能、安全機能、擊發機能ヲ藥莖及爆管ヲ使
用シテ實施ス

前條ノ機能點檢ノ際擬製彈藥筒ヲ使用シテ實施セバ効果一層大ナル
ベシ

第二十九 砲架攫爪（カクソウ）ノ取付機能ヲ分解點檢ス

射撃シタル場合架匡ニ對シ砲架ノ仰起ヲ防止スルハ砲架攫爪（前方、

二ヶ後方一ヶ）ノミナリ

攫爪ハ其ノ作用確實（方向旋回圓滑ナラバ間隙ハ少ナル方ヲ可トス）

ニシテ取付ボルトハ充分締付ケアルヤ否ヤヲ檢ス

第三十 搖架制衝桿ノ機能（射角制限裝置）

最大射角ニナシタルトキ搖架下面ニ裝着シアル制衝桿ハ架身ノ突筈

ニ接觸シ其ノ機能良好ナリヤ其ノ際砲尾下面ト攫爪取付ボルトハ接

觸セザルヤ

第三十一 閉鎖機ヲ開キ最大射角ニナシタルトキ鎖釜下端ハ砲架各部

ニ接觸セザルヤ

尙其ノマ、ニテ方向旋回スルモ差支ヘナキヤ

第三十二 砲床ノ基礎ボルト及架匡ボルトハ締付充分ナリヤ

第三十三 砲ノ水準規正ハ充分ナリヤ

砲身ヲ水平ニナシ屬品中ノ象限儀ヲ砲尾上ニ置キ方向旋回ヲナシタルトキ氣泡ハ中央ニアルヲ要ス

土地ノ變動ニヨリ水準規正ニ狂ヒヲ生スル事アルヲ以テ定期的ニ檢査スルヲ要ス、狂ヒアル場合ハ架匡底板下面ニ坐板等ヲ裝入シテ規正ス

第三十四 砲各部ノ機能點檢

檢査眼ヲ以テ當リナキヤ、緩ミナキヤ、錆付ナキヤ、不具合ノ點ナキヤ等ヲ構造機能ヲ研究シツ、點檢ヲナシ直ニ修正又ハ其ノ手續ヲナスコト

第三十五 屬品全部支給セラレザル場合ハ中隊單位ニテモ可ナリ、一組取揃ヘル如ク心掛クル必要アリ然ラザレバ分解結合及點檢上不便多シ(部隊ノ状態ニヨリ一樣ニハ出來ザルモ應用材料ニヨリ目的ヲ

達シ得ベシ)

第五章 砲床ニ就テ(附圖第十三、十四参照)

第三十六 砲床ハベトン砲床及木材砲床ノ二種アルモ水久的ノ場合ハベトン砲床ヲ制式トス

本砲ニハ他ノ火砲ノ如ク水準規正裝置ヲ有セザルタメ出來得ル限り水平ニナスヲ要ス

第三十七 本砲運搬車ヲ使用スル場合ヲ考慮シ陣地設備ハ大本營發布ノ砲床築設要領ニヨリ實施スルヲ要ス即チ

イ. 砲床基礎ボルト孔ノ位置ハ十二個ノ内對稱ノ二個ノボルト孔中心ノ延線ハ陣地入口ノ中央線上ニアルヲ要ス

ロ. 陣地入口ハ二米五〇〇以上ナルヲ要ス
ハ. 陣地入口ノ防壁ハベトン製トセズ木製ニシテ盛土トスルコト(運搬車ヲ使用スル場合ハ取除クタメ)

第三十八 ベトン砲床ノ断面附圖第十三ノ如シ

第三十九 木材砲床ノ一般要領附圖第十四ノ如シ

木材砲床ハ一時假障地ニ火砲ヲ据付スル場合又ハベトン砲床間ニ合
ハザル場合或ハ運搬車ト併用シ野戰用ニ使用スルモノニシテ構造及
組立要領左ノ如シ

1. 木材砲床一組ハ左ノ部分ヨリ成ル

イ 底板 板 一ヶ 八角形ノ鐵板ニシテ下床材ノ下面ニ敷ク

ロ 下床材 九ヶ 九ヶヲ一組トシ併列ニ並べ使用ス

ハ 外枠材 六ヶ 六ヶヲ一組トシ六角形ニ組立ル

ニ 連結材 十二ヶ 十二ヶヲ一組トシ下床材及上床材ノ中間ニ放

線狀ニ組立ル

ホ 上床材 九ヶ 九ヶヲ一組トシ併列ニ並べ使用

ヘ 床板 一ヶ 略々圓形ノ鐵板ニシテ最上部ニ使用

ト 甲ボルト 十二ヶ (全長六七八耗) 甲乙丙丁ハ使用區分ヲ明ス

チ 乙ボルト 八ヶ (全長六五九耗) カニスルタメ假ニ附シタル

リ 丙ボルト 八ヶ (全長六一七耗) モノニシテ現品ニハ記入シ

ヌ 丁ボルト 十二ヶ (全長五〇〇耗) アラズ

ル 基礎ボルト 十二ヶ

2 組立要領左ノ如シ

イ 地面ヲ直徑約六米深サ約七〇〇耗ニ掘下ゲ底部ヲ水平ニナス

ロ 底板ニ基礎ボルト十二個ヲ通シ掘リ下ゲタル地面ノ略々中央ニ

置ク

ハ 下床材ニ夫々ボルトヲ通シ底板上ニ置ク

ニ 外枠材ヲ下床材ノ周圍ニ組立ル

ホ 連結材ヲ下床材ノ上ニ放線狀ニ組立テ先端ハ外枠材上ニ置キボ

ルト(ナット共)ヲ以テ外枠材ト連結材ヲ假ニ連結ス

ヘ 上床材ヲ下床材ニ對シ直角方向ニ併列ニ並べル

ト 甲乙丙各ボルトニ坐板及ナットヲ裝入ス

チ 甲乙丙丁ノ各ボルトヲ順次ニ締付ル

床板ヲ組立ル（此ノ場合基礎ボルトノねじ部ニ反起ヲ生ゼシメザル如ク注意スルコト）

又土砂ヲ以テ上床材上面ノミ殘ル如ク被フ

3. 注意事項左ノ如シ

- イ. 電纜ハ適宜ノ方向ヨリ連結材ノ間隙ヨリ裝入スルモノトス
- ロ. 陣地附近ノ水溜リヲナクスルタメ上床材上面ハ地面ヨリ若干高クナル如ク構築スルコト
- ハ. 全部組立后ハ水準規正ハ不可能ナルタメ最初ヨリ充分注意シテ水準規正ヲナスコト、組立后狂ヒアル場合ハ床板ト架匡底板ノ間ニ適宜ノ坐板等ヲ入レテ規正スルコト

第六章 射撃上ノ注意

第四十 現在ハ平時テナイカラ射撃上ノ注意トシテ改メテ云フ必要モナイ、第四章ノ點檢、調整、要領ニヨリ常ニ整備シアルヲ要ス、併シ特ニ必要ナル射撃圖及射撃後ノ注意ヲ若干述ブ

一 各部共ニ燒付ヲ生ジナイ様ニ充分給油スルコト

特ニ閉鎖機及自動閉鎖機ノ燒付ニハ注意スル必要アリ

二 射撃間ニ於テモ適宜給油シ得ル如ク屬品及應用工具等ヲ砲側ニ準備スルコト

小型ノ簡易洗桿（藥室洗桿）等ヲ作り砲腔内ニ適時塗油スル如クスルモノ例ナリ

三 本砲ハ後坐長ヲ一發毎ニ見ル必要モナイ位後坐長ノ揃フ機能良好ナル駐退機ナルモ最初ノ二、三發ハ必ず見ルコト

四 方向旋回制限裝置ガ架匡内ニ發着シアリ同一方向ニ二回以上旋回セザル事ヲ常ニ忘レザルコト

五 連續射撃ノ際ハ駐退機内ノ液ガ膨脹シ復坐機ヲ生ズ復坐機ガ或ル程度ニ達セバ自動閉鎖ノ作用ヲセズ故ニ射撃ノ間ヲ利用シ先端ノ空氣抜孔塞螺ヨリ排液ス

六 彈藥筒ガ發火シナイ時發室（發針共）ヲ後退サスシテ釣桿ヲ後方ニ

引クトキハ不時ニ發火スルモ危險ノナイ姿勢ニテ且引手ノ後端ヲ
握リテ引クコト

尙發火シナイ時ハ約三〇秒經過シタ後ニ處置スルヲ本則トス

七 射撃後ハ即チ次ノ戦闘ノ準備ナリ各部ノ損傷ノ復舊ト手入ヲ充分
ニナスコト、砲腔内及閉鎖機ハ特ニ必要トス

八 各豫備品特ニ閉鎖機、自動開閉機ノ各部品ハ全部適合検査ヲ實施
シ直ニ使用シ得ル如ク砲側ニ準備シアルヲ要ス

九 不完全閉鎖ノ状態ニテ引鐵ヲ引カザルコト

十 後坐長ハ各射角及寒暑ニヨリ若干ノ差異アルモ約三八〇耗ヲ標準
トシ四〇〇耗ヲ超ユルトキハ調整スルコト

十一 射撃準備トシテ彈藥筒ノ裝填検査ヲ實施スル場合ハ擊鑿ヲ脱シテ
行フコト

めくれず

| 照準具 | 復坐機 | 自閉機 | 砲身 | | | 區分 |
|--|----------------------|---|---|------------|---|--------|
| | | | 砲尾ノ側面 | 砲尾ノ突筈 | 身管、被筈 | |
| 九七式電氣照準具 | 伸縮桿 | 外筒支板 | 砲尾ノ側面 | 砲尾ノ突筈 | 身管、被筈 | 名稱 |
| 上記ノモノヲ二式電氣照準具ニ改ム後ツテ機被照準具トシテ近ク簡易照準具(假名稱)ヲ裝着スル豫定ナリ | 抗力ヲ増加スルタメ桿ノ徑28ヲ34ニ改ム | 閉鎖機關閉ノ震動ニヨリボルト緩解シ外筒支板動揺スルヲ以テ「アリ」溝ニ入レ且ボルトニテ締付ル如ク改ム | 從來ノモノハ目的ニ比シ相當大ナル部品ヲ使用シアリタルモ必要ヲ認メザルニヨリ現在ノ如ク小型ニ改ム | 必要少キヲ以テ削除ス | 制式トシテハ身管ハ自由交換式ナルモ整備ノ關係上現在部隊支給ノモノハ單肉自緊砲身ナリ | 制式改正要領 |

第七章 主ナル制式改正一覽表

RESTRICTED

WDC No _____

Team _____

Scanner

Index No _____

388899167.

Handwritten mimeographed loose-bound booklet with blue-printed drawings, "Firing Test Report on the Improved Turret No 2 of the Former Battleship TCSA," undated.

RESTRICTED

第八章 主要諸元

| | | | |
|----|------|---|-----|
| 砲架 | 區分名稱 | 數 | 量 |
| | 區分名稱 | 數 | 量 |
| 砲架 | 高 | 式 | 齒弧式 |
| | 樣 | 式 | 齒弧式 |

砲架
單肉自緊砲身ニシテ砲身

| | | | | | | | |
|--|-------------------------|---------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------|----------------------------|
| 砲架 | | | | | | 齒架 | 八八式高射照準具 |
| 階板 | 防楯孔蓋 | 防楯 | 方向齒輪用鋼球 | 方向制限指示器及砲架ノ溝板 | 方向分畫板 | 齒弧ノ重垂 | 右ノ如ク照準具ノ改正ニ伴ヒ砲架各部ノ關係箇所ヲ修正ス |
| 二式電氣照準具裝著ノ火砲ニハ階板モ必要ナキヲ以テ廢止ス、但シ信管測合機托架ハ動搖セザル如ク補強ス | 右ニ伴ヒ防楯孔蓋モ廢止ス從ツテ負角ヲガ11掛ル | 資材節約ノタメ防楯ヲ廢止シ吊籠式ノ階板ヲ裝著ス右ニ伴ヒ砲架各部ヲ若干修正ス | 鋼球整備ノ關係上徑2吋及2.5吋ノ二種ヲ使用シアリ | 方向二回制限裝置ノ旋回可能範圍ヲ外部ヨリ知ルタメ裝著ス | 製作ヲ容易ニスルタメ托架ト分畫板トヲ一體ノ鍛鋼品ニ改ム | 資材ノ關係上鉛材ヲ鋼材ニ改ム | |

| | | | | | |
|-------------------------|---------------------------------------|--------------------------|--|----|---|
| 砲架 | 方向齒輪用鋼球 | 防 | 防 | 防 | 階 |
| 鋼球並備ノ關係上徑2吋及2吋ノ二種ヲ使用シアリ | 資材節約ノタメ防楯ヲ廢止シ吊籠式ノ階板ヲ裝著ス右ニ伴ヒ砲架各部ヲ若干修正ス | 右ニ伴ヒ防楯孔蓋モ廢止ス從ツテ負角7°ガ11掛ル | 二式電氣照準具裝著ノ火砲ニハ階板モ必要ナキヲ以テ廢止ス、但シ信管測合機托架ハ動搖セザル如ク補強ス | 階板 | |

第八章 主要諸元

| 區分名稱 | 數 | 量 | 砲 | | 身 | | 機鎖閉 | | 架指 | | 機退 | | 復坐機 | | 砲架 | | | | | | | | | | | |
|--------------------|-----------|-------------|--------|------|---------|--------------------------|--------------|-----------------------------|------------|-------------|-----------|-----------|--------------|---------------|------------|--------|------|----------|-------------|------------|-------------|---------|-------|------------|--------|-------|
| | | | 口徑 | 全長 | 腔種類 | 綫度 | 全重量 | 機式 | 機式 | 樣式 | 重量 | 後坐樣式 | 液ノ種類 | 液ノ種類 | 樣式 | 重量 | 樣式 | | | | | | | | | |
| 單肉自緊砲身ニシテ砲身及砲尾ヨリ成ル | 八八耗 | 三米九五九(四五口徑) | 等齊楔狀右旋 | 三二二 | 六度 | 約一萬二三〇 | 自動開閉垂直鎖栓式 | 三耗 | 被筒式 | 約五七〇耗 | 單一後坐 | 活塞漏孔式 | 駐退液 乙 | 約五立九 | 三六〇耗乃至三九〇耗 | 約四三〇耗 | 約九〇耗 | 〇、五秒乃至一秒 | ばね式左右一組ヨリ成ル | 左右各一組計約九六耗 | (一組)左卷右卷各一個 | 自然長約七二五 | 基筒固定式 | (高低、方向照準機) | 約二萬二〇〇 | 約七〇〇耗 |
| 區分名稱 | 數 | 量 | 機準照低高 | | 機準照方 | | 防楯 | | 直砲列放 | | 吊籠式ノ階板ノ全幅 | | 防楯ノ全幅 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | 高低射界 | | | | | | | | | | | | |
| 齒弧式 | 負七度乃至正八〇度 | 四度十六ノ二 | 永轉螺式 | 三六〇度 | 三度十六ノ一〇 | 一方向二回轉以上同一方向三回轉ノ為メ及位置ヲ有ス | 二方向迅速旋回裝置ヲ有ス | 左右各一組ヨリ成ル装置整備セラル、モノニハ裝著シアラズ | (二個)約一萬六〇〇 | (除防楯)約五萬〇〇〇 | 約一米八〇〇 | (砲身水平)約四米 | (砲身水平)約二米一五〇 | (射角八〇度)約四米六〇〇 | 約二米三〇〇 | 約二米八四〇 | | | | | | | | | | |

裏面白紙

PPING ADVICE # 10112
K # 15
M # 167

め
く
れ
ず

